

9月7日(金) ワークショップ第2室(3号館302)

西東京科学大学における英語教育[メディア・ラボ・システム]

西東京科学大学 山本涼一

西東京科学大学は1990年4月、西東京の山梨県北都留郡上野原に開校された理工学系単科大学で、4学科各100名(電子情報・バイオサイエンス・物質工学・経営工学)の学生は、将来必然的にコンピュータ・システムにかかわり合う環境にあります。

当然ながら本校の目的は、語学力を身につけた国内外に通用する科学技術者の養成です。一方、(1)1クラス60名の教室環境で、(2)英語に弱点を持ち、(3)語学学力差が多岐にわたる学生で、(4)学習目的が多様な学生への指導は、一斉学習で同一教材を一斉指導する方式では困難な点があります。

従って本校では、1教室に「メディア・ラボ」システムを設計・導入し、CALLと視聴覚を主体とした語学システムを取り入れました。新しいシステム導入時に常についてまわる問題は、教師が操作上とまどう点にあります。そこで使用する教師に対する配慮としてLL・視聴覚・CALLを操作上分離・独立させ、機能上システムを意識しなくても使用出来るよう工夫されています。また、LLはパソコン電源を入れて立ち上がり、CRT上のライトペン操作で、すべてコントロール出来るよう簡便さを計り、CALL教材の作成は教材作成支援システムで作成出来るようになっています。本システムの特徴は以下の通りです(なお機器構成・授業プロセス等詳細は当日ハンドアウトと実演で紹介予定)。

1. 各学生が、自分の学習レベルで英文を読みながら、語句や文の解説・資料をマウスをクリックして検索したり、静止画情報・動画を呼出し学習できるハイパーテキストを基本ベースに、語学学習用アプリケーションを作成した学生本位のCALLシステムです。

2. 学生はハイパーテキスト上で学習した内容を、別メニューで準備されたCALLソフトで再強化できます。学習内容は英文速読、穴うめ・クローズテスト、読解、翻訳などで、学習履歴はすべて記録されます。

3. パソコンにビデオ・プロセッサを搭載し、ビデオモニタ同様パソコンCRT上に動画を表示できるようにし、パソコン文字・音声・静止画・動画を組み合わせた総合学習ができるよう設計されています。なお、数多い市販VTR教材が使用できるように映像機器はRS232C対応VTRを採用しました。

4. 各学生は、LANシステムでさまざまな情報を交換できる電子黒板(BBS)、及びコミュニケーション手段として、個人・多数間送受信できる電子メールを使用します。

5. 学生の評価は、学生の作業(ウィンドウ開閉)を管理し、CALLの学習結果を記録することにより、学生に評価を意識させず総合評価判断できるよう工夫されています。